



録画配信の
2次元コード

丸橋 ユキ
光と風

狭山市にとって「文化」とは？ 文化の循環を育むまちをめざして

Q 「文化都市」を掲げる狭山市が、文化を軸とした活動の循環を生み出すために、「文化」をどう捉え、どのような姿を目指しているのか。その実現に向けて今どの位置にいるのかを確認した。また、市民の多様な文化芸術活動をどう支え、若い世代や個人のクリエイターをどう位置付け支援するのか。公民館や地域交流センター、市民会館などの公共施設が、貸館機能を超え、創造と交流の場としてどのような可能性を持つのかを質問した。

市民の文化活動支援が市民文化祭や団体中心にとどまり、個人の創作活動や若手クリエイターが見えにくい現状。こうした担い手をどう把握し、支援につなげていくのか

A 市民部長 クリエイターが地域の魅力を高める存在と認識しているが、把握は十分とは言えない。今後、多様な人材と行政、人材同士が会い交流し、新たな活動へとつながる流れを生み出すことが重要と考えている。

Q 公共施設の更新や改修時に、質の高い展示空間の整備を取り入れることへの考えは

A 市民部長 重要だと認識している。他市事例や利用者の声、専門家の意見等を踏まえ研究する。



文化芸術の多様な価値を見つめよう



録画配信の
2次元コード

福田 正
健政会

市民の命が最優先。道交法改正 自転車用ヘルメットに助成金を

◆命に関わる助成金。真っ先に考えるべき問題では

Q 毎日の光景で、パパ・ママが運転して、前後に子どもを乗せて、全員がノーヘル。もし転倒したときや何かの拍子で車道に投げ出されたときのことを考えただけでも、恐ろしい。脳挫傷ともなれば死亡の要因にもなる。まずは、経済的弱者に対して市でヘルメット購入時、助成金等を支払うことについて見解は

A 市民部長 自転車運転時のヘルメットの着用は、頭部を守り、交通事故の被害を軽減するものとして、その促進については重要な課題であると認識しており、現在ヘルメットの購入に対する助成制度は考えていないが、制度導入が実際に着用促進につながるのか、その制度の有効性について、既に助成金制度を導入している自治体の状況等を確認していく。ヘルメット着用の重要性を伝え、実際に着用する習慣を身につけるよう啓発を推進し、着用率の向上を図っていく。

◆「二十歳の集い」

Q 「二十歳の集い」発表者の選定方法、内容の事前チェック、いつも同じ発表者の順番等は、どのように決めているか

A 生涯学習部長 市内8校の中学校長から推薦された卒業生で、内容が公序良俗に反しないか等、原稿の確認をし、発表者の順番は、学校設置条例の順としている。



ノーヘル走行は危険